

栗橋宿跡第8地点

栗橋宿跡第8地点では、土地を区画した幕末以降の溝跡や杭列、建物跡、多くの土壌などが見つっています。

日光街道



①砂に埋もれた土壌

洪水によって砂が入り込んだ跡です。砂のほかにも、細かい木片が入り込んでいました。



②建築廃材が捨てられていた土壌

屋根の材料として使われていた木の板やスギの皮、瓦が捨てられていました。



- 凡例
- 土壌
 - 埋桶
 - 建物跡・基礎
 - 溝
 - 塀・杭列
 - 木樋
 - 区画復元線

③木樋

木の板で組まれた排水路です。この先にある集水軒と繋がっています。



④埋桶

調査区の各所に大小さまざまな木製の桶が埋められていました。

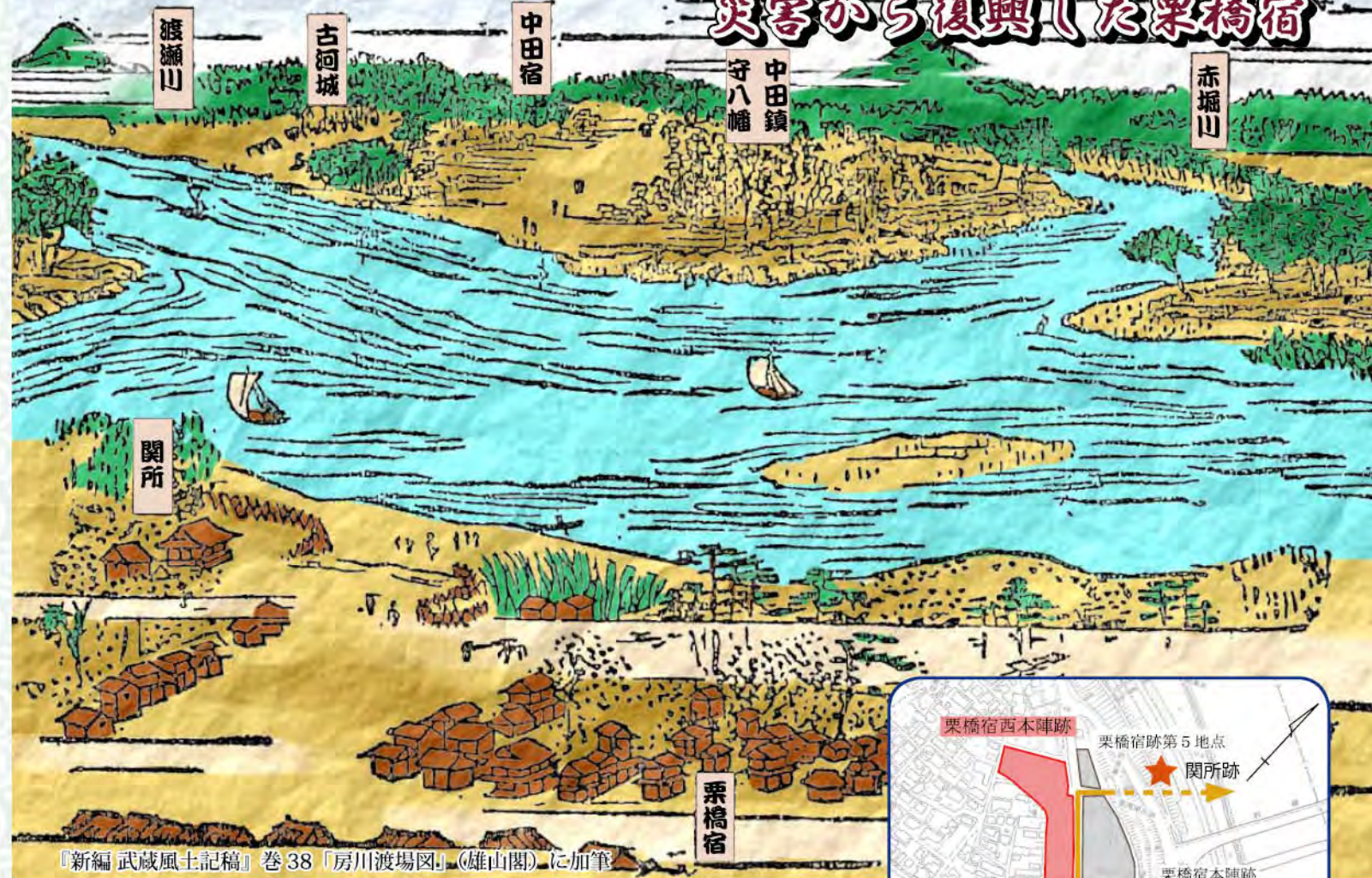


埼玉県教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

久喜市栗橋

栗橋宿西本陣跡・栗橋宿跡

災害から復興した栗橋宿



『新編 武蔵風土記稿』巻38「房川渡場図」(雄山閣)に加筆

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、利根川の堤防強化工事に伴い、久喜市(旧栗橋町)で江戸時代の日光街道栗橋宿を発掘調査をしています。今年度は、栗橋宿西本陣跡及び栗橋宿跡第8地点を調査しています。

今回の調査では、大名が泊まった本陣につぐ格式の脇本陣跡が発見されました。そのほかにも、昔の宿場内の生活や、洪水や大火にみまわれた様子などが明らかになってきました。災害から復興した街並みや建物の配置、人々の暮らしについてご案内します。

主催 埼玉県教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
久喜市教育委員会

平成28年度第4回遺跡見学会
平成28年9月11日(日)



栗橋宿西本陣跡

栗橋宿西本陣跡では、幕末期の町人のすまいの跡を調査しています。土地を区画した溝や建物跡、焼けた壁土や瓦、材木を廃棄した穴(土坑)などが見つっています。



①池状の遺構
建物跡の裏手にある人工の池です。洪水によって砂が入り、埋まっていました。



②建物の基礎の跡
脇本陣と考えられる建物の地業跡です。他の建物跡よりも規模が大きく、瓦片や材木を用い、頑丈に突き固められていました。

※地業とは 建物を建てる時に行う基礎工事(整地や地固め作業)のことです。



▲砥石がついた木材



▲焼印「罎」が押された木の板



③廃棄土坑
主に建築廃材が捨てられていました。焼印の押された木の板や、砥石が出土しました。焼けた木材も捨てられていました。



災害と復興の歴史

調査区の土層を観察すると、水害や火災などの災害が複数回起こり、そのたびに何度も復興してきたことがわかります。

凡例

- 土坑
- 埋桶
- 焼土・炭の土坑
- 建物跡
- 溝
- 井戸
- 池
- 杭列
- 木樋



文字が書かれた木の板
西本陣跡では、文字の書かれた木片がいくつも出土しています。



八坂神社

0 10m 1:300



④建物跡・土坑
火事で焼けた壁土や瓦、陶磁器を廃棄した場所(写真奥の穴)に、新しく建物を建てています。白線は建物の基礎範囲です。

日光街道

至栗橋関所